

糖尿病代謝内科

診療科の特色

糖尿病が診療の中心である。日本糖尿病学会認定教育施設。

糖尿病はどの科でも遭遇することの多い疾患で、糖尿病診療の基本を経験することはどの科を専門にする場合でも有用であると考えます。

研修受け入れ期間

4 週以上が望ましい。

研修の人数

1 期間 1 名。

研修の到達目標

(診断)

糖尿病の診断基準および病型分類に関する学会勧告の内容を理解し、臨床応用できる。糖尿病の診断と病型分類に必要な検査（経口糖負荷試験、グルカゴン負荷試験など）、血中、尿中 CPR、抗 GAD 抗体、IA-2 抗体、HLA 等の検査の意義を理解し、1 型、2 型、SPIDDM(Slowly Progressive IDDM)等の病型の診断をすることができる。

重症度の診断について、糖尿病の診断基準を理解し、空腹時、食後血糖、グリコヘモグロビン、尿および血中ケトン体、血液ガス分析等の意義を理解し、重症度（境界型からケトアシドーシス→昏睡に至るまで）の診断を的確に行えるようにする。

糖尿病網膜症の重症度を理解することができる。腎症については、微量アルブミン尿、ネフローゼ症候群、腎不全等をよく理解し、病期を的確に診断できる。神経障害については、腱反射、振動覚検査等の身体所見をとることができる。心拍変動等の自律神経機能検査を良く理解し、自律神経障害の診断ができる。

(治療)

糖尿病の重症度、病型を的確に判断し、個々の患者に適した治療目標の設定および治療計画がたてられる。そのために食事療法の理論と実際の知識を習得する。特に肥満患者と非肥満患者に対する総カロリーの適切な処方、高血圧、高脂血症、腎不全等の合併症のある患者に対する食品構成の適切な処方ができる。運動療法の理論と実際の知識を習得、実施し、その効果を的確に評価する。特に、患者の心機能、腎機能、網膜症などの合併症を考慮した運動処方ができるようにする。経口血糖降下剤の理論と実際の知識を習得する。SU 剤、 α グルコシダーゼ阻害剤、ビグアナイド剤、インスリン抵抗性改善剤等の特性と適応を理解し使用できる。インスリン注射療法の理論と実際の知識を習得する。特に 1 型糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス等のインスリンの絶対的適応と、相対的適応について習熟

する。インスリン従来療法、強化療法の適用について理解する。多種類のインスリン製剤の特徴を理解し、適切に使用できる。またインスリンの副作用についても理解する。

慢性糖尿病合併症を伴う糖尿病の治療の理論と実際の知識を習得する。特に網膜症を合併する糖尿病患者の血糖コントロールについて、腎症を伴う患者のタンパク制限等の食事療法、血圧管理等の薬物療法、神経障害を伴う患者の薬物療法について習得、実施しその効果を評価できる。

低血糖に対する正しい知識と対応を習得する。

(患者教育)

指導医の指導のもと、入院患者の個人指導を行う。糖尿病教室の他のスタッフの講義を聞く。

これらの経験を通して、食品交換表の利用方法の指導、運動処方作成、インスリン自己注射、血糖自己測定指導ができるようにする。

研修スケジュール

(週間スケジュール)

	<u>午前</u>	<u>午後</u>
月	外来	病棟 (糖尿病教室)、回診
火	外来	病棟、内科医局会
水	外来	病棟
木	外来	病棟
金	外来	病棟

研修期間中は指導医の指導のもと、主に入院患者の治療にあたる。研修期間によっては、指導医の指導の下、糖尿病教室の一部を担当、外来の新患の予診を行い治療方針をたてたり、他科からの依頼の対応にあたる。

研修後の進路

日本糖尿病学会認定教育施設のため、専攻医として当院で引き続き研修を続け、日本糖尿病学会認定専門医の取得をめざすことも可能。